

第3章 まちづくりの主要課題

1 島内市と連携したコンパクトで住みやすい土地利用の誘導

- 本市の中心市街地や由良地区、五色地域などの地域拠点などを中心に、日常の買い物や医療などの都市機能を集約させ、利便性を向上させることが必要です。
また、淡路島の中心地として、本市の中心市街地や各地域拠点に都市機能の集積をしつつ、足りない都市機能については、隣接市との連携によって相互補完し、淡路島が一体となった利便性の向上を図ることが必要です。
- 公共交通では、路線バスやコミュニティバス・デマンド交通が市内を運行していますが、住民の多くは自家用車で移動しています。今後、高齢化が進む中で、交通弱者に対する交通手段の維持など高齢者の外出を支援する取組みがますます重要となっています。
- 特に、中心市街地において空き家が集中して存在しており、高齢化率の増加に伴い、今後も増加することが考えられます。
また、空き家の増加による人口密度の低下が、まちの効率の低下や賑わい感の喪失をもたらすことに加え、災害・犯罪リスクの増大や町並み景観への悪影響など、地域イメージの低下をもたらすため、同様に増加しつつある空き地と併せ、空き家の解消が必要です。

2 企業誘致や観光資源の活用による地方創生

- 人口減少が進む中、活力あるまちづくりを進めていくため、企業誘致をはじめ、空き家の改善・活用や良好な住環境の整備、子育て支援の充実など、定住促進策を講じていく必要があります。
- 本市には、レンガ造りの旧工場をはじめ、レクリエーションの場となる海岸や、碁盤の目状に町割りが形成された城下町、サントピアマリーナに代表されるリゾート施設など、数多くの観光資源が存在しています。今後もこれらの観光資源を効果的に活用するため、市内に点在する観光資源を有機的につなぐような整備が必要です。
- 本州と四国の中間地点にある本市においては、平成 30 (2018) 年に神戸淡路鳴門自動車道の淡路島中央 SIC の供用が開始されるなど、より一層企業誘致や観光等における優位性が高まっていることから、適切な土地利用を踏まえた計画的な企業誘致が求められています。

3 大規模災害に対する備え

- 本市の中心市街地は、洲本川の河口付近に位置しているため、河川浸水や津波による浸水が懸念されています。このことから、避難施設の更なる充実や避難路の確保、住宅密集地などの解消やオープンスペースの設置といった都市基盤の整備など、住民の命と生活を守るための対策が急務となっています。

4 豊かな自然環境の保全活用

- 本市の土地利用の大半は自然的土地利用となっており、瀬戸内海国立公園などの豊かな自然が広がるほか、市街地近郊においては農地が広がっています。
一方で、近年は農地転用や、担い手不足による耕作放棄地の増加が見られ、環境悪化が懸念されることから、持続可能なまちづくりに向けた、自然環境の保全が重要です。
- 新型コロナウイルス感染症を背景に、生活需要に対応した公園・緑地などのオープンスペースの整備、活用が求められています。

5 効率的な行財政経営と住民・行政の協働の推進

- 人口減少など今後大きな財政収入が見込めない中で、今後は、長期末着手の都市施設の見直しや公共施設の適切な維持管理等による長寿命化を図るなど、有効かつ効率的な行財政経営が求められます。
- 多くのまちづくり施策を行政だけで実現することは難しく、道路や公園などの公共施設の維持管理など住民と行政が協働で取り組むことが重要です。